

2004.04.20-とうほく彩発見-国際教養大学の開学 出よ「21世紀の新渡戸」(『毎日新聞秋田地方版』)

中嶋 嶺雄さん(国際教養大学学長)

(国際社会学者)

とうほく 彩発見

懸案の国際教養大学(Akita International University)が去る4月8日に開学した。秋田県雄和町のキャンパスには、平均15倍強、後期日程は実質36倍強という高い倍率の入試をクリアした優秀な学生たちが全国から集った。華やいた雰囲気の中にも、すべてが英語の授業に早速挑んで、猛勉強に励んでいる。24時間開放の図書館には深夜まで学生がいて、「こんなに勉強したことない」と言いつつも、この大学に入ってよかったとみな大変満足しているようだ。

話題を呼んだ「暫定入学生」も含め148名の新入生の出身地は全国各地にわたっているが、秋田県の26名をはじめ岩手県14名、宮城県7名、青森県6名、山形県4名、福島県4名と

国際教養大学の開学



TOUHOKU SAHAKKEN

出よ「21世紀の新渡戸」

東北6県で4割強になっているのは心強い。鹿児島県の奄美大島や長崎県の五島列島、そして沖縄県からの新入生など、キャンパス脇の森に真っ白に咲いている水芭蕉の群落に大喜びしていた。

ところで、私は4月8日の開学式辞で次のように述べた。最後に、私たちがこのキャンパスで共通して読むべき三冊の

東北6県で4割強になっているのは心強い。鹿児島県の奄美大島や長崎県の五島列島、そして沖縄県からの新入生など、キャンパス脇の森に真っ白に咲いている水芭蕉の群落に大喜びしていた。

その後、1873年に東京外国語学校(東京外国語大学の前身校)に入学した第一期生の一人でした。彼が、札幌農学校(後の北海道大学)に行く以前のごときで、後に日本の代表的な知識人となった生徒たちと一緒に勉強しました。しかし大変な国際人への敬虔なキリスト教徒であり、後に国際連盟の事務次長に任命された彼に、何が「武士道」を書かせたのでしょうか。彼は自らの国際的経歴を通じて、日本の伝統的な倫理的価値が国際社会できちんと評価されるべきだと主張したかったのです。皆さんがこれから学んでいく国際教養、または「International Liberal Arts」は、絶え間ない努力と心の広い視野を必要とするものです。新渡戸が感じたこと

なかにま・みねお 1936年長野県松本市生まれ。東京大学大学院修了、社会学博士。95年東京外国語大学学長。カリフォルニア大学客員教授などを歴任。現在、文部科学省中央教育審議会委員(大学院部会長・外国語専門部会主席)。著書に「北京烈烈」(サントリイ学芸賞)、「国際関係論」など。03年度「正論大賞」受賞。

は、皆さん自身が自分の国際教養を学ぶ上でも重要な意味があるのです。新渡戸稲造の「武士道」を読むことによって、日本人が持つ洗練されたマナーと精神力について学ぶことができま

す。それは皆さんが将来、地球市民として国際的に活動していく上で大変に重要なのです。『「武士道」が出版されてから一世紀余りが過ぎようとしている今日、国際教養大学に学ぶ私たちの学生諸君の中から、『21世紀の新渡戸』が出て欲しいという私の希望を申し述べ、まして、式辞の結びといたします。

文久2(1862)年に南部藩士の三男として盛岡に生まれた新渡戸稲造が東京外国語学校に入学したのは、横浜の貿易商の二男として生まれた岡倉天心

同様に弱冠11歳のときであった。当時の東京外国語学校英語科の人氣がいかに高かったかについては、ロシア語のお雇い外国人教師レフ・メーチニコフの「回想の明治維新」(岩波文庫)が詳しく伝えている。こうして当時の生徒たちは、本物の英語を身に着け、やがて世界に向けて英語で発信したのであった。